

久津八幡神社

久津八幡神社の起源は応神天皇（在位 270 年-310 年と考えられている）を祀るために設立された西暦 4 世紀に遡ると言われています。応神天皇は神道の八幡神の神霊です。

この神社の本堂は 1412 年に建てられ、軒下のカエル足の支柱に 2 羽のウグイスの写実的な彫刻が施されています。拝殿は 1581 年に建立されました。軒に彫られた二匹の魚は「水を呼ぶ鯉」として知られ、敷地を火災から守るために置かれていました。しかし、この彫刻の威力が強すぎたために近くの間下川が氾濫したと言われています。その後、この現象に怯えて神社は魚の力を制限する矢を魚の隣に彫らせました。

1 月中旬、地元の高校生が久津八幡神社に集い、毎年恒例の「川鎮めの儀」が行われます。彼らは日本の伝統的な弓道の衣装を着て、川を鎮め、地元の漁師に豊かな獲物を確保するために藁の鯉に矢を放ちます。

久津八幡神社は僧侶円空（1632 年-1695 年）による特徴的な木像やこの地域の疫病を祓ったとされる獅子頭の彫刻など、何世紀も前の文化財を保存しています。